

2. 「顎の成長発達に影響を与える因子について」

九州歯科大学小児歯科学講座教授

木 村 光 孝

今回は後天的な環境要因として現代の食生活を中心として顎の成長発達に影響を与える因子と思われるものについて述べることにする。

1) カルシウム、ビタミンDを考える

我が国は火山灰に囲まれているため四季を通じてカルシウムが摂取されにくい土壌であることを十分考える必要がある。

腸管からのカルシウムの吸収を考えたときカルシウム摂取と同時にVDの補給を忘れてはならない。添加物を含有した加工食品の取り過ぎには注意が必要である。

2) 物理的刺激が関与する機能量の減少

顎骨は咀嚼器官の中心的存在である。そこで食物の硬軟度による咀嚼運動が、顎顔面骨の成長発達に影響を与えることはいうまでもない。

軟性食物を長期間摂取することにより咀嚼の機能は減少すると思われる。顎成長の低下は個体レベルや現代の食生活のみで解決される問題ではない。しかし咀嚼運動が永久歯列の過程の流れに至るまで長期間にわたって制限されると顎骨の発育は低下する。そこで機能量を増すような物理的刺激を長期間にわたって顎骨に伝達することにより成長発達を促進することが可能であると思われる。